

令和5年度普及活動外部評価 報告書

令和6年2月
長野県農政部農業技術課

県下10か所の農業農村支援センター（以下、「支援センター」という。）では、「しあわせ信州創造プラン3.0」及び「第4期長野県食と農業農村振興計画」に基づき、長野県農業と地域の発展を目指して、農業の生産性や収益性を向上させるための技術指導、担い手の確保、育成などの業務を行っています。これらの業務を効果的かつ効率的に展開するため、県では支援センターの活動について、外部からの幅広い視点で客観的な評価を行い、その結果を今後の活動に活かしています。

本年度は様々な分野で活躍される5名の外部有識者に依頼し、諏訪、南信州、長野の3支援センターを対象に外部評価を実施しました。

今後、外部有識者から提言いただいたご意見等を、県下全ての支援センター及び農業技術課の今後の業務に反映させ、目標の達成に向けて活動の充実を図っていきます。

1 外部有識者

（五十音順・敬称略）

所属	役職	氏名
おうち料理研究家	—	王鷲 美穂
株式会社丸友中部青果	取締役	片山 環
白馬農場株式会社	代表取締役社長	津滝 明子
J A全農長野生産振興部	部長	根津 彰寛
新潟食料農業大学	教授	吉岡 俊人

2 開催日時、評価対象等

支援センター	実施日	説明事項・評価課題
諏訪	10月31日	1 諏訪地域の農業及び普及活動の概要 2 重点課題「諏訪ブランド農産物を支える担い手の育成」 3 特徴的な課題「地域に特異的に発生した難防除病害虫への対応」
南信州	10月19日	1 南信州地域の農業及び普及活動の概要 2 重点課題「地域性を活かした魅力あるきゅうり経営の推進」 3 特徴的な課題「中山間地域におけるスマート農業の推進」
長野	10月11日	1 長野地域の農業及び普及活動の概要 2 重点課題「あんずのブランド化等による日本一のあんず産地の再構築」 3 特徴的な課題「自ら行動し始めた地域の担い手組織への支援～模索するもも産地振興プロジェクト～」

3 支援センター重点活動課題の総合評価

支援センター	課題名	総合評価※
諏訪	諏訪ブランド農産物を支える担い手の育成	3.5
南信州	地域性を活かした魅力あるきゅうり経営の推進	4.0
長野	あんずのブランド化等による「日本一のあんず産地の再構築」	3.7

※ 総合評価は、出席委員の平均値

[評価基準と判定区分]

- 5：目標以上の成果が認められる。
- 4：目標どおりの成果が認められる。
- 3：活動は十分に認められるが、成果はやや不十分。更なる活動展開を期待したい。
- 2：成果が認められないが、活動展開の糸口は見えている。
- 1：活動が不十分で成果が認められない。

4 外部有識者からの意見、提案等を踏まえた今後の対応

(1) 諏訪農業農村支援センター

ア 諏訪ブランド農産物を支える担い手の育成

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>重点対象者8名に対する3年間の活動は終了したが、引き続き、課題解決にむけた個別支援をお願いしたい。</p>	<p>引き続き、一般活動の中で個別課題の解決に向け、巡回指導を実施します。 また、新規就農者の多くが、条件の悪いほ場を借用している実態を市町村及び農業委員会と共有し、地域計画策定と合わせて改善に努めます。 今回の活動で解決に至らなかった新たな野菜品目の導入、トルコギキョウの土壌病害対策等については、継続して取り組んでまいります。</p>
<p>里親農業者の確保・育成について、今後も関係機関と連携し、登録にむけた働きかけや里親研修実施のための支援を積極的に行ってほしい。</p>	<p>関係機関で構成する「諏訪地域就農支援連絡会」において、引き続き、就農希望者の動向や新規就農者をとりまく課題を共有・検討しながら、里親農業者の確保や独立就農にむけた支援方法の研修などを実施してまいります。</p>
<p>共通課題である湿害対策については、平高うね成型機やカットブレイカーの活用等により、改善が見込まれるため、JAと連携した対策の周知と実践指導をお願いしたい。</p>	<p>湿害対策については、今回の活動で「諏訪地域湿害対策手引書」を作成し、当センターのHPで公開しているところです。 今後もJAと連携した手引書活用による研修会や実践ほ場の見学会などを開催するとともに、参考となる事例を取りまとめ、手引書のバージョンアップを図ってまいります。</p>
<p>現地調査先で説明のあった食育を含む農業体験の受入は、子供達の県産農産物（諏訪地域等）への関心を高める貴重な機会であり、のちの新規就農者につながる可能性もあるため、今後も積極的な受入支援を望む。</p>	<p>現在、当センターでは伝統野菜（糸萱かぼちゃ、諏訪紅かぶ）やりんごの生産ほ場等で、小学生を対象とした食育活動の支援を行っています。加えて、保育士を目指す長野県福祉大学校（諏訪市）の学生に対する食育講座も実施しています。 引き続き、機会を捉えて、食育を行う農業者の支援にも取り組んでまいります。</p>

イ 支援センター総括所見等

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>難防除病害虫の対策については、緊急防除に対する協力金や捕獲作物の導入支援など、引き続き農業者に対する積極的な支援をお願いしたい。</p>	<p>当地域に発生した難防除害虫の緊急防除では、防除実施農家への協力金支給や捕獲作物の種子配布が行われております。 難防除害虫に対する技術支援として、農薬や資材の効果的な使用方法やまん延防止対策など、資料等を作成し、研修会等を通じて支援してまいります。</p>
<p>難防除病害虫の対策については、可能な限り輪作体系を推進し、新たな品目提案や栽培モデルの作成などJAグループとともに進めていきたい。</p>	<p>農業者が主体的に“輪作体系”に取り組むためには、農業者と一体となって検討を進め、“農業者の腑に落ちる提案”を粘り強く実施していくことが大切であると考えています。 また、産地の品目転換には販路確保や技術指導など、JAグループとの連携が不可欠であると考えています。引き続き、関係機関との連携を図りながら、新品目提案や栽培モデル作成を進めてまいります。</p>

(2) 南信州農業農村支援センター

ア 地域性を活かした魅力あるきゅうり経営の推進

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>新規就農者への経営モデルの提案は、よい取組である。所得目標 250 万円は市町村が認定する就農計画の目標数値とのことであるが、もう少し上をねらうモデル提案があるとよい。ご検討いただきたい。</p>	<p>第4期長野県食と農業農村振興計画では、「皆が憧れ、稼げる信州の農業」として、①新規就農・定着期、②安定経営形成期（売上1億円）、③経営発展・規模拡大期（売上10億円）の3段階のステージ別に支援をしていくとしています。</p> <p>管内では、きゅうり主体の雇用型の法人経営はまだ少ないですが、高齢化が加速化する中、産地維持のためには、大規模経営体の育成も必要であると考えます。</p> <p>今後、きゅうりで経営発展した先輩農業者の取組を紹介できるような機会を作ってまいります。また、目標達成した者が、さらにステップアップを目指す経営モデルを示すことができるよう、きゅうり主体の大規模経営体の事例研究を進めてまいります。</p>
<p>ICT活用により病虫害情報を公開した活動は、素晴らしい取組であるため、他の品目や他の支援センターにおいても、導入と活用を進めていただきたい。</p>	<p>農業技術課（専門技術員）とも情報共有を図り、様々な機会を通じて、他の支援センターにこの取組や効果を紹介してまいります。また、他の品目への展開を検討してまいります。</p>
<p>きゅうりの生産が安定してきたら、JA出荷だけでなく、農業者自らが販売することも選択肢の一つとして提案されてはいかがか。</p>	<p>きゅうりを主体とした法人経営体の中には、規模拡大を機に、国際水準GAP認証を取得し、有利販売につなげている事例があります。</p> <p>今後は、こうした先行事例や販路拡大に係る情報提供も含めた支援を行ってまいります。</p>
<p>カイゼン手法の導入等により、今後更なる労力軽減対策を進めてほしい。</p>	<p>作業の効率化や省力化は、新規就農者に共通する課題であるため、きゅうり情報交換会等を通じて、カイゼン手法の導入効果や工夫した点について周知し、できることから取組を進めていけるよう支援してまいります。</p> <p>また、カイゼン手法の考え方については、品目を問わず、新規就農者を対象としたスキルアップセミナー等を通じた情報提供に取り組んでまいります。</p>

イ 支援センター総括所見等

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>スマート農業の推進は、農業の担い手不足等の課題に対する有効な取組である。しかし、導入費用や免許取得、データの活用方法など農業者が個々に導入するには、課題も多いと感じた。普及組織を含む行政の強力なサポートを望む。</p>	<p>今後も農業農村振興課（補助事業所管）と連携を図り、有効な事業や今回の普及活動を通して得られた成果などを積極的に周知し、農家負担の軽減に取り組んでまいります。</p> <p>また、機械の効率的な運用やデータの活用方法等については、先進事例の紹介、学習・情報交換の場の提供や個別相談等により、それぞれの規模・意向に応じた支援を実施してまいります。</p>
<p>スマート農業分野は絶えず進歩しており、最新機器や能力などを農業者に紹介し、活用を検討する取組は重要である。</p> <p>園芸品目が多い当地域において、樹園地でのドローン活用など実用化にむけた検討やデモ、集団運用の方策検討などを行い、JAグループとも連携したスマート農業の推進を今後もお願いする。</p>	<p>最新のスマート農業技術の情報を収集し、実演会や体験研修を開催することで、農業者に情報提供し、活用検討の場を設けてまいります。</p> <p>また、園芸品目においては、特産である柿の円星落葉病防除で農業用ドローンの活用を検討しております。今後も県試験場やJAと連携を図りながら、園芸品目での技術導入・活用も進めてまいります。</p>

(3) 長野農業農村支援センター

ア あんずのブランド化等による「日本一のあんず産地の再構築」

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>事前資料にも記載されているが、凍霜害対策として、燃焼法以外の新たな手法の検討をお願いしたい（環境面も考慮して）。</p>	<p>凍霜害対策については、民間メーカーから、「散布により被害軽減ができる」とうたわれている新たな資材が複数販売されています。 JA等と連携し、これら資材の効果確認試験を実施するとともに、他の方法の情報収集も進めてまいります。</p>
<p>「ハーコット」の裂果防止対策の試験結果が判然とせず、原因と対策について検討の余地があると感じた。品種特性が主要因であるならば、豊産性品種（「ニコニコット」等）への切替えなどの検討も必要ではないか。</p>	<p>果実が薄く裂果しやすいことは、「ハーコット」の品種特性です。 しかし、そのリスク以上に良食味であるメリットが大きく、市場からも期待されています。農業者にとっても、収入の見込める魅力的な品種ですので、更に裂果防止対策の推進に努めます。 ご指摘のとおり、生食用あんずの品種検討は大切ですので、今後もJAと連携して実施してまいります。</p>
<p>鮮度保持技術として、MA包装資材の有効性が確認できたことは成果である。今後、その商品の何が有効であるかの確認ができれば、適切な資材選びの判断材料になるのではないか。</p>	<p>今回の重点活動で検討し、現在も使用されている資材は、次により鮮度保持効果を高めています。 ①フィルムに特殊加工を施す等により酸素の透過量を調整する。 ②これにより、青果物の呼吸が低くなる平衡状態、いわば“冬眠状態”を作り出し、鮮度を保持する。 今後も情報収集に努め、より有効な資材の検討を進めてまいります。</p>
<p>令和4年に生食用あんずの販売金額が過去最高となった要因はブランド化によるものだけなのか、他に要因はないのか、ご検討いただきたい。</p>	<p>ご指摘のとおり当年は、農産物全体に販売が良好となった時期でもあり、社会的経済的要因もあると思われます。 しかし、以前は首都圏において「あんずは加工原料」という認識でしたが、重点活動を通じて、「あんずは生食できる」という一定の認知度向上につながった成果はあると認識しています。 今後も、関係機関や農業者とともに、生食用あんずの認知度向上をすすめ、ブランド化を強化してまいります。</p>
<p>事前資料に記載されている「あんずの歴史」に興味を引かれた。このような歴史とあんずをセットでPRしていくと、より多くの消費者層の関心を高めることができるのではないか。</p>	<p>千曲市のマスコットキャラクター「あん姫」は、あんずの歴史に由来し考案されました。 あん姫も含めて、ご提案いただいたPR方法について、関係機関とともに検討してまいります。</p>
<p>「杏月」の県外へのPRを継続しつつ、地元での認知度を上げる活動にも力を入れてほしい。例えば、商工観光分野と連携し、毎年開催される「あんず祭り」で、贈答用の注文を受けるといった提案を行うことも一つの方法ではないか。</p>	<p>今まで「杏月」の位置づけは、首都圏における生食用あんず認知度向上の「フラッグシップ」でした。 ご提案いただいた贈答への対応については、現状では数量が少ないため取組み困難ですが、地元でのPRは必要であると思います。</p>

	幸い、地元では「ハーコット」の美味しさは認知されていますので、「杏月」の数量確保のためにも、今後更に「ハーコット」の生産拡大・品質向上を進めてまいります。
--	---

イ 支援センター総括所見等

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
台風 19 号被災地域への支援は、人事異動等で担当職員が変わっても途切れなく支援が継続する体制づくりをお願いしたい。	今後も地域担当が窓口となり、技術担当と連携しながら、被災地域の農業者に寄り添った支援をしてまいります。
長野地域はきのこの栽培割合が多いと説明があった。環境に配慮した生産の観点から、使用済み培地の利活用についても、より一層の推進を図っていただきたい。	使用済み培地の利活用は、長野地域のみならず県全体の課題として以前から検討し、取組みを行っています。主には堆肥化し、土づくりや肥料の一部代替として活用をしています。 昨今の肥料高騰対策として、更に推進を検討してまいります。

5 その他の主な意見

(1) 諏訪農業農村支援センター

- ・どの職員の方でも確実にほ場を把握することができる「ZGIS」の導入・活用が画期的であった。詳細な農業者情報を紐づけできると、担当職員が変わってもきめ細かなサポート体制が継続できると思う。
- ・新たに発生した難防除病害虫対策は、過去に経験のない事象であるが、関係部署やJA等と連携をとった最善の対策を今後も期待する。

(2) 南信州農業農村支援センター

- ・重点活動課題も特徴的な課題も、課題設定から評価までわかり易くまとめられており、効果の検証が適切であった。
- ・担い手も作目も多様化する中、支援センターの役割は大きく、重点活動課題以外にも多くの課題があると思うが、これからも農業者に寄り添った支援センターであってほしい。

(3) 長野農業農村支援センター

- ・台風 19 号被災地域の復興プロジェクトは、大変有意義な活動であると感じた。
- ・若手職員の方がリーダー的農業者と接することで技術力を身につけていく様子が伺え、農業者と普及組織の良好な関係を感じることができた。